

清水病院の主な高度医療機器

No.	機器名称	略称	台数	購入時期	使用部署
1	全身用コンピュータ断層撮影装置	CT	2	H19.1、H25.3	放射線技術科
2	磁気共鳴断層撮影装置	MRI	1	H15.3	放射線技術科
3	血管造影撮影装置		1	H22.11	放射線技術科
4	放射線治療装置	リニアック	1	H16.3	放射線技術科
5	ガンマカメラ		1	H10.3	放射線技術科
6	体外衝撃波結石破碎装置		1	H10.9	泌尿器科

経営改善に係る主な取組状況（清水病院）

取組分類	取組内容	実施年度	効果	平成21年度以降の取組状況	今後の取組
1	民間的经营手法の導入	H21年度	経費削減効果や、人事管理（欠員補充等含む）、健康管理、勤務体制管理等に係る負担軽減効果が見込まれる。	H21.10.1 院内保育所「あいあい保育園」開所 プロポーザル方式により民間業者に委託運営を実施 【対象児】0歳から満3歳まで（未就学児は一時預かりのみ） 【定員】23名/日（H24年7月定員増 15→23名） 【保育時間】基本保育・一時預かり 7:30～19:00（月～土） 夜間保育 15:30～翌8:00（火・木）	完了
	クレジットカード決済の導入	H20年度～	年間10%の利用を見込み、患者サービス及び収納率の向上を図る。	平成21年3月から実施 H21：5,853件 利用率 9.5% H22：7,583件 利用率 10.0% H23：9,190件 利用率 10.8%	完了
2	経費節減抑制対策	DPC実施 H21年度～	標準化した医療の提供、費用の分析等により、コストの削減及び増収が期待できる。 また、DPC実施後の各種分析により採用薬品の見直しを図る。	H21年7月からDPC対象病院となる。 院内委員会を中心に、コーディングや診療内容の分析、検討、各科へのフィードバックなどを行っている。 【DPCと従来の出来高比較】 H21：158百万円（5.4%）増 H22：342百万円（7.8%）増 H23：329百万円（7.3%）増 【後発医薬品の採用数】 H21：133品目（1,506品目中8.8%） H22：150品目（1,516品目中9.9%） H23：172品目（1,558品目中10.8%）削減額：7,976,810円	継続 後発医薬品は先発薬品に比べ安価であるが、安全管理や安定供給について考慮する必要があるため、今後も院内の薬事委員会で適切な検討を行ったうえで採用を決定していく。

取組分類	取組内容	実施年度	効果	平成 21 年度以降の取組状況	今後の取組
	静岡病院との事業共同化の推進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ○薬品を共同購入することによりコストメリットを出す（継続）。 ○診療材料についても共同購入を推進する（H21 年度～）。 ○委託事業一本化の検討・推進を図る（平成 21 年度～）。 	<p>【薬品の共同購入】</p> <p>H21：263 品目（交渉品目上位 500 品目中）約 412 万円減額 H22：128 品目（交渉品目上位 300 品目中）約 908 万円減額 H23：133 品目（交渉品目上位 250 品目中）約 693 万円減額</p> <p>【診療材料の共同購入】</p> <p>H23：1,158 品目</p> <p>【委託業務の共同化】約 120 万円削減</p> <p>H21：委託 3 業務 H22：委託 4 業務 H23：委託 9 業務 他 2 業務</p>	拡大
3	収入増加確保対策	医療スタッフの安定的な確保等	<p>継続</p> <p>医師・看護師等医療スタッフの安定的な確保、地域の医療機関との一層の連携などにより、入院患者の増加に努め、病床利用率の向上を図り、平成 23 年度に、病床利用率 79.6% の達成を目指す。</p>	<p>【医師負担軽減と処遇改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応援医師（延 900 人以上）及び救急業務従事者等の派遣確保（2→3 人）、医療秘書の充足（5→11 人） ・平成 21 年 4 月から「初任給調整手当」を創設（H21 年 4 月） <p>【看護師確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度途中における採用試験の実施（5 回） ・院内保育所の設置等により確保及び離職防止 ・退職看護師への声かけ <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学医局への積極的な働きかけ ・民間人材斡旋会社への依頼 ・医大生・研修医を対象とした合同説明会へのブース出展 ・H24 年度にホームページをリニューアルする。 <p>【病床利用率】</p> <p>H21：78.2% H22：80.6% H23：80.3%</p>	

職員数（ ）は後期研修医 内数

	医師数	看護師数
H21.4.1	66(16)	330
H22.4.1	69(14)	336
H23.4.1	70(10)	332
H24.4.1	72(14)	333

取組分類	取組内容	実施年度	効果	平成21年度以降の取組状況	今後の取組
収入増加 確保対策	未収金対策	H20年度～	平成21年度に徴収員を1～2名増員し、徴収実績の向上を図る。また、クレジットカード決済の導入を21年3月に実施し患者サービスの向上とともに、収納額、収納率の向上を図る。	平成21年度から徴収員3名体制で電話による督促、文書連絡、現地調査、相談対応等を行っている。 平成23年1月から債権回収会社へ徴収業務の委託を開始。 【過年度未収金の比較】 平成21年度決算額 143,175,401円 平成22年度決算額 147,137,869円 平成23年度決算額 146,374,341円 ※クレジットカード導入状況は前頁のとおり	継続
	DPCに対応した診療の実施	H21年度～	リスクの少ない手術予定の患者に対し、外来にて術前検査を実施し、入院期間を短縮することにより、DPC評価による診療収入全体の増収が図られる。	※前頁のとおり	継続
	地域医療支援病院指定を目指した準備の実施(ICUの設置(5床)、紹介率・逆紹介率の向上等)	継続	急性期病院としての機能を高め、開業医との連携を強化することで、地域全体の医療の質を向上させ、より良い医療を効率的に提供することができる。	【地域医療支援病院】 H23.9.29承認 H23.10.1指定 【ICUの整備】 H24:実施設計 6床(うち感染症用2床) 【紹介率】 H21:50.1% H22:40.4% H23:42.4% 【逆紹介率】 H21:36.1% H22:65.4% H23:77.3%	指定完了 ICU整備継続 H25～26年度 :工事施工 H27年度:稼働

取組分類	取組内容	実施年度	効 果	平成 21 年度以降の取組状況	今後の取組
4 その他	医師業務の負担軽減	H20 年度～	医療秘書を 20 年度に 5 名配置し、勤務医の負担を軽減し、平成 21 年度には 10 名を配置し一層の負担軽減を図る。	H21 年 3 月医療秘書室を新設 H21 末：11 名 H22 末：12 名 H23 末：11 名 H24 年 2 月現在：15 名 業務：診断書作成サポート (H22：8,173 件 H23：8,578 件) 応援医師の電子カルテ代行入力、院内がん登録等	拡大 H25 医療秘書 17 名に増員予定
	患者満足度調査の実施	継 続	患者による医師、看護師、事務等への評価、要望を把握し患者サービス及び経営の改善を図る。平均満足度評価 4 以上(5 段階評価)が確保できるように努める。	平成 22 年度患者満足度調査結果 【入院に関する平均満足度】 H21：4.33% (うち十分満足：44.0%) H22：4.23% (うち十分満足：38.7%) H23：4.34% (うち十分満足：45.5%) 【外来に関する平均満足度】 H21：4.03% (うち十分満足：24.9%) H22：4.05% (うち十分満足：22.7%) H23：4.09% (うち十分満足：27.7%)	継 続
	チーム医療に対応できる看護師のスキルアップ	継 続	平成 21 年度から認定看護師の資格取得を推進することで、看護能力向上を図る。	H21：2 名受講 がん化学療法看護、緩和ケア H22：2 名受講 皮膚・排泄ケア、脳卒中リハビリテーション H23：2 名受講 集中ケア、感染管理 H24：2 名受講 がん化学療法看護、慢性心不全看護	継 続